

Title	中小証券における人的資源の有効活用 - 証券営業員の転職行動分析 -
Sub Title	
Author	石井登(Ishii, Noboru) 石田英夫
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1988
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1988年度経営学 第583号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001988-0583

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 石 井 登

主査 石 田 英 夫

副査 鈴 木 貞 彦

所属ゼミナール 石 田 英 夫 研

奥 村 昭 博

中小証券における人的資源の有効活用 —証券営業員の転職行動分析—

日本の証券市場の急激な拡大により証券業界は急成長をとげた。証券業界内では人材スカウトが増え、全般的な人材不足が大きな問題となっている。このような労働環境下でなぜ営業員は現在の会社で勤め続けるのか、また転職を決意する仕組みは何なのかを明らかにするのが本論文の目的である。そこでこの研究では中小証券の営業員300人に対し質問票調査を行った。

証券営業員の労働生活の満足度の因子分析の結果、賃金、職務についてはおおむね満足しているが、労働時間や職務負担については不満が強く、転職可能性を示す移動性向も高い水準であることがわかった。職務については同業他社と共通の部分が多く、企業特殊性は低いという意識を持っていることもわかった。現在の労働生活に不満を感じ、高い移動性向を持ち、社外に現在より高額な年収の雇用機会がある営業員がなぜ現実の転職行動をとらないのだろうか。調査結果から、現実の転職行動に影響している要因として「労働生活の満足度」と「企業特殊性」があることが確認された。また更に、これらの意識が勤続年数とどの様に関わっているかを検討した。調査結果では勤続年数が長くなると、企業特殊性はかえって低下するが、労働生活の満足度は上昇する。満足度が上昇するために移動性向は減少し、企業特殊性は低下するものの現実の移動は増加しない。

以上の事から、証券業界に於ける現実の労働移動に影響する要因として、労働生活の満足度が企業特殊性よりもより重要である事がわかった。そして移動性向には「賃金満足」や「職務満足」よりも「会社満足」がより強く影響していることが判明した。「企業特殊性」の構成要素としてはハードの面よりもソフトの人ネットワークが重要である。この研究の結論として示される転職行動のフレームワークは実務に対しても重要な含意を持つと考えられる。